

“Regulatory roles and functions in information-based regulation: a systematic review”

『情報による規制』における規制の役割及び機能：システマティックレビュー」

Frances Bowen, Panos Panagiotopoulos

Abstract

「情報による規制」とは、政策目的の達成を目指す規制当局が行動変化を起こすために情報を利用するときを生じる。現代の規制国家において、「情報による規制」は企業を規制する代替的な手段として現われてきたものであり、より従来から存在する直接的な命令及び統制並びに市場に基づく政策手段とは対照的な性格を有する。国際的な関心が高まっているにもかかわらず、「情報による規制」における規制当局の役割、情報の流れを形成して活用する規制当局の機能、それらの役割や機能を果たすための行政能力に関して理解するという課題が依然として存在する。そこで、本論文では、システマティックレビューという方法に基づき、環境、エネルギー及び食料政策の分野における 130 編の査読論文の成果を統合して分析する。そして、規制当局の機能の類型論を発展させ、特に、基準設定、保証と媒介及びスマートデータマネジメントに着目して、現代の規制国家に求められる新しい行政能力について概説する。

Points for practitioners

「情報による規制」は、その発祥地である米国及びその他の先進国を超えて、世界の多くの地域に広がりを見せている。他方で、その規制のスキームの設計と実施は、規制当局にとって新しい課題でもある。本論文のレビューでは、3つの政策分野（環境、食料及びエネルギー）の関連研究を統合し、規制当局が果たしている機能の新しい類型論を開発する。本論文は、情報又は規制を取り巻く現代的な環境において、規制当局の役割と機能がどのように変化する必要があるかを論じた最初のものであり、従来では規制緩和アプローチとして見られてきた「情報による規制」への関与が重要であることを強調する。